



王室ファッション裏話

…服飾史家・中野香織…

④

「ヴィクトリア女王」
バーサ・ミュラー(ハインリッヒ・フォン・
アンゲリの原作に基づく) 1900年 (原作：
1899年) 油彩/カンヴァス ロンドン・ナ
ショナル・ポートレートギャラリー蔵
©National Portrait Gallery, London

長く喪服装飾品で変化

白いウエディングドレスを
着て、「花嫁は白を着る」と
いう流行を世界中に定着させ
たヴィクトリア女王は、最愛
の夫を亡くした後、長い間、
黒い喪服を着て過ごした。

喪服が変わり映えないの
で、アクセサリーで変化をつ
けた。青いサッシュから下が
るのは「レッサージョーシ」
というガーター勲章で、竜を
退治する聖人を彫刻したカメ
オがはめ込まれている。
左手に重ね付けしたブレス

レットにはチャームがついて
いる。おそろく亡き夫アルバ
ート公を描いた細密画や、髪
を入れたロケットではない
か。最愛の人の髪を使ったへ
アジュエリーや、喪服にあう

黒いジュエットのジュエリー
は、感傷的なヴィクトリアン
ジュエリーとして知られる
が、発信源はヴィクトリア女
王である。白い服で結婚し、
夫亡き後も黒い服を着て思い
続けるというロマンティック
ラブの幻想も。